

篆書林

吳大澂臨「虢季子白盤」

●吳大澂(ごたいいちょう)道光15年(1835)～光緒28年(1902)

中国、清代の学者、政治家。江蘇省蘇州の人。字は清卿、号は恒軒、憲齋(かくさい)など。官は湖南巡撫。金石文字の研究に功績をあげ、また篆書、山水画をよくした。著書に『説文古籀補』『恒軒所見所藏吉金錄』『憲齋集古錄』など。松丸東魚(明治34年／1901～昭和50年／1975)はこの作について「この臨書を拓本と比較してみると、頗るよく似て居り、忠実な臨書であるということが言える。趙之謙や呉昌碩などの奔放な篆書をみつけた人には、この温雅な調子に些か食い足りないような感を抱く人があるかもしれない。然し大人の風格を偲ばせるような気品をこのうちから見逃してはならぬと思う。」と評している。

●虢季子白盤(かくきしへくばん)

西周 伝清・道光年間(1821-50)陝西省寶鶏市出土 青銅 長さ137.2cm、幅86.5cm、重さ215.3kg 中国国家博物館収蔵

盤は祭祀や宴会に先だって手を清めるために使われた。匜(水差し)で注いだ水を受けるものである。一般的に盤は円形であるが、この盤は長方形で、異様に大きい。春秋時代の西方の辺境地域にあった小国「小虢」が、なぜこの様に大きな盤を作ったのか謎であるが、周王朝の東西分裂を收拾した功勞によるとの説がある。底には8行・110字の銘文があり、虢季子白は獮狁と戦いで勝利をおさめ、周王から下賜品をたまわったことが記載されている。中国国家一級文物であり、大孟鼎、毛公鼎、散氏盤、虢季子白盤を「晚清四大國宝」という。

【銘文の意味】

周王の十二年、正月丁亥の日、虢季子白は、この宝盤を作った。偉大な子白は戦に強く、四方を平らげた。獮狁を洛河の北に討ち、首500をあげ、虜50人を生け捕り、第一の手柄で帰還した。立派な子白は首を周王に差し出し、周王は子白を絶賛し、周王の周廟の庭でもてなしの宴をされた。周王は乗馬・弓・旗・鉄を授け、「白父よ、見事な手柄であった。われを助けて蛮族を討て」と言われた。子々孫々、この栄光が長く続きますように。

吳大澂臨「虢季子白盤」の収載本としては、

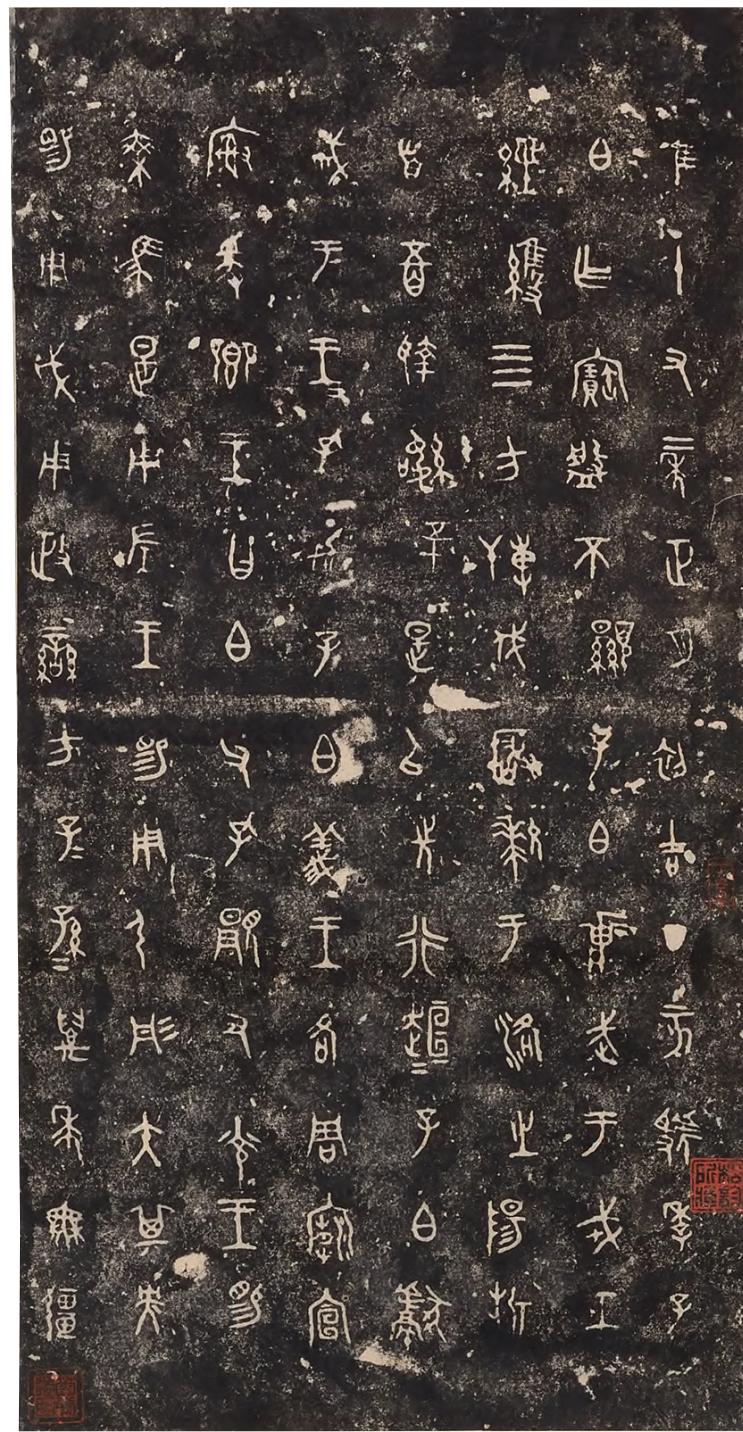
1.『吳大澂臨季子白盤』松丸東魚編 1967年 白紅社

2.『虢季子白盤』彩色放大本金文名品 孫寶文編 2014年 上海辞書出版社
などがある。

※『樂篆』では篆書の筆順・筆路や書く時のチェックポイントが分かる「らくらく篆書コース」を設けて、臨書を中心に作品を受付け(『樂篆』の年間購読者対象)、全作品に「樂篆評価」をしております。詳しくは『樂篆』篆書コース係へお問い合わせください。

篆刻ひとすじ 『樂篆』三圭社

〒145-0062 東京都大田区北千束2-17-13 TEL:03-3729-2855 FAX:03-3729-9269 Email:maro@sankeisha.co.jp



创

采

角

吉

正

一

口

刀

采

隹（惟）十又二年，正月初吉丁

龕

子

元

盤

日

新

不

止

李

亥，號季子白乍（作）寶盤。不（丕）

戎

甲

鼎

工

赤

子

經

于

于

顯子白，壯武于戎工，經

采

羊

雉

于

伐

三

彌

匱

才

維四方。
搏伐獮狁，
于洛

蠱

山

山

辛

奇

陽

是

𣎵

𠂔

之陽。折首五百，執訊五十，是

萬

桓

之

成

予

朱

于

白

光

以先行。
趨趨（桓桓）子白，
獻馘于

王

子

王

孔

子

子

周

義

格

王。王孔加子白義。王各（格）周

召

秀

廟

宣

榭

卿

爰

父

饗

廟宣榭，爰卿饗。王曰：‘白父，’

余

今

夕

果

王

骨

也

馬

子

孔覲(有)光。王暘(賜)乘馬,是

用



用

大

用

𠂔

𠂔



干

用左（佐）王，賜（賜）用弓，形矢其

央

賜

鉞

鑑

征

蠻

蠻

征

用

央，賜（賜）用戊（鉞），用政（征）蠻（蠻）方。子

寒心齋吳大澂



衆

恒

多

少

才

子孫孫，
萬年無疆。